

図書波だより

第 69 号

平成14年6月30日
愛媛大学附属図書館

目 次

平成14年度附属図書館事業計画について… 1	「松高図書」と「鈴鹿文庫」の簡易目録を作成 6
平成13年度附属図書館統計 …… 4	お知らせ …… 7
第73回日本医学図書館協会総会を開催 … 5	本館からのお願い …… 7
ホームページから	附属図書館委員会委員 …… 7
～2002年版購入雑誌リストについて～	附属図書館委員会 …… 7
…………… 5	人事異動 …… 8
「江嶋家文書」「永野文庫」目録を刊行 …… 6	図書館日誌（会議，研修） …… 8

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

平成14年度附属図書館事業計画について

今 川 敏 男

附属図書館の諸活動については、本誌や図書館のホームページなどを通じて周知に努めてきたところですが、大小の課題に図書館がどのように取り組もうとしているのか、また、具体的にどのような手順でそれらを遂行しようとしているのかなどについて全体像を示す機会がなかったように思われます。自己点検・評価を実施するにあたってまずは自らが何を行い、行おうとしているのかを第三者に理解してもらうことが出発点であるべきで、今回、その第一歩として、今年度の事業計画をお示しし、皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。以下に述べる事業計画については、去る3月15日開催の平成13年度第5回附属図書館委員会で承認いただいたものに、補足説明や今日までの状況を取り入れるなど、趣旨を損なわない範囲で加筆修正を加えておりますので申し添えます。

1 研究支援機能の整備

(1) 学術情報基盤整備の推進

附属図書館、総合情報処理センター及び「メディア開放センター」を核とする学術情報基盤の整備、キャンパスIT化及びポータル（情報の総合的な窓口）機能の充実を推進します。

(2) 電子ジャーナル利用負担金の共通的事業費化

電子ジャーナルをめぐる状況及び附属図書館における取り組みについては、本誌第65号(2001.6)において柏谷図書館長が詳細に述べています。その中で、学内での費用負担が大きな課題としてあげられています。 「電子ジャーナルは、21世紀に輝ける研究拠点を目指す上で欠くことのできない全学共通の研究基盤」として、全学の合意形成を訴えてきたところです。

それらを踏まえて、附属図書館委員会に

においては、財務委員会へ要望書を提出し、電子ジャーナル利用負担金の共通的事業費化について各学部のご理解を求めてまいりました。

幸い、現下の厳しい財政事情にもかかわらず、教育研究基盤校費の0.6%(平成14年度1,250万円)を充当すると配分方針が承認の運びとなりました。各学部及び当局のご協力に対して改めて謝意を表する次第です。

この事業費によりまして、国立大学図書館協議会タスクフォースが対応している5大海外大手出版社等の電子ジャーナルのコンソーシアムに参加し、有利な条件での電子ジャーナルの導入が実現しました。(利用についてはすでに周知済みですが、附属図書館ホームページから大いに活用してください。)

全学共通的事業費化をめぐる議論の中でも文系のジャーナルの充実や利用ガイダンスなどについてご意見を頂戴しておりますので、さらに体系的な収集及び利用について配慮していく予定です。

今後はこの事業費の枠組みを維持するために、学術雑誌の購入の一元化についても検討が必要になるかと思っておりますので、引き続きご理解とご支援をお願いします。

2 学習図書館機能の整備

(1)図書館の環境改善

本学の教育環境の一層の改善を図る一環として、平成13年度から5か年計画で「教育環境改善経費」(計1億3千万円)の配分を受けることとなり、初年度は、本館のカウンター等の更新及びカーペットの敷設を実施しました。今年度は、閲覧機の更新等を行う予定としております。本経費の計画及び執行にあたっては「教育環境改善経費のアカウントビリティに関する懇談会」を設置し検討することとしております。

(2)学生モニター制度の創設

今後の環境改善その他図書館サービスの向上に学生の声を反映させるために「学生モニター制度」を創設します。

3 図書館活動の活性化

(1)貴重資料のデジタルコンテンツ化

本誌第64号(2001.3)にて既報のとおり貴重資料のデジタルコンテンツ化等について検討するために附属図書館に「デジタルコンテンツ研究会」を設置し対応しておりますが、平成13年度には「西條誌稿本」のCD-ROM化及びインターネットでの公開を実現し、また、学長裁量経費で、「江嶋家文書」のデジタル化・目録の刊行及び「多田満中(絵巻)」のデジタル化も行いました。

今年度は、今治市と連携し、「江嶋家文書」のCD-ROM化及びインターネットでの公開を行う予定です。

(2)外部資金の導入

附属図書館では、科学研究費補助金及びその他の外部資金の導入についても鋭意努力しているところです。

平成14年度科学研究費補助金の申請をしていた「堀内文庫」及び「西條誌稿本」のデータベース作成、及び住友財団に申請を行っております「米山日記」の修復助成については残念ながら採択されませんでした。図書館の活動に理解のある団体等がありましたら、ぜひご紹介くださるようこの場を借りてお願いいたします。

4 事務の改善等

(1)法人化への対応

国立大学等の独立法人化に関する調査検討会議から「新しい「国立大学法人」像について」(平成14年3月)という最終報告が出され、また、本学における法人化準備体制も整備されたことから、法人化に向けての動きが一気に加速しています。附属図書館においても係長会議を中心として事務レベルによる検討を開始しております。各方面からの情報収集と並行して附属図書館委員会における審議に資するべく早期の素案作成を目指しております。

(2)資料購入プロセスの改善

資料購入依頼のWebサービスでの受付け、書店の出版情報データベースを活用した選書など、インターネットなどの新しい状況

に対応して資料購入プロセスの一層の改善を検討しています。

(3)デリバリー（搬送）システムの改善

学内搬送システムを利用して、3館（本館・2分館）のいずれの館でも他の館の資料の貸出・返却ができるように改善いたします。同時に、長期的に安定した、かつ、きめの細かいサービスが可能となるよう業者委託をも視野に入れ検討を続けております。

(4)事務の簡素化・省力化

この4月から、3館ごとに置かれていた物品供用官の一本化、資料ID体系の一本化及び管理区分の簡素化を実施しました。

また、CATP-Auto(資料の自動所蔵登録システム)の導入の検討をはじめとして、さらに事務の簡素化・省力化を推進します。

(5)図書館設備の改善

本学の新身分証明書(ICカード、磁気カード)に対応した自動入館管理装置や貸出・返却のセルフサービス化が可能な自動貸出返却装置の導入など、セキュリティ・利便性・事務の省力化に対応した設備の改善を検討しています。

(6)国際ILLへの参加

国立大学図書館協議会が国立情報学研究所と連携して推進している米国OCLCとの国際ILLに参加し、日本及び海外の学術情報の一層の流通に貢献します。

5 施設の整備

(1)本館の新営及び医学部分館の増改築

平成15年度概算要求重点事項として計上しております。

本館の新営は、総合情報処理センター・メディア開放センター(建設予定)に隣接して組織的な連携・統合も考慮しつつ、メディアコンプレックス型の研究図書館を目指した構想となっております。そこでは、研究活動とのコラボレーションが実現できるよう快適な施設・空間を用意し、また、学術雑誌の集中化なども計画しています。

(2)農学部分館の改修

国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、エレベータ・身障者用トイレの設置

など利用環境に配慮した改修を今年度に行う予定です。

(3)放送大学の跡地利用

メディア開放センターとの合築が予定されている放送大学愛媛学習センターの跡地の利用について具体的な検討が必要となっております。

6 その他

(1)目録システム地域講習会の開催

国立情報学研究所と共催で、中国・四国地区の目録システム地域講習会(図書コース)を8月に開催します。

(2)学術講演会の開催

愛媛地区大学図書館協議会との共催で、外部有識者による学術講演会を開催し、図書館活動の活性化と図書館職員のスキルアップを図ります。

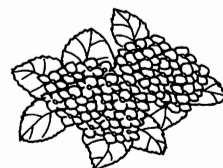
(3)第73回日本医学図書館協会総会の開催

5月23日(木)、24日(金)の両日に館長司書会議及び総会が医学部分館が当番館となり、南海放送本町会館で開催され、基調講演者として国立情報学研究所宮澤彰教授を、また、来賓として文部科学省研究振興局明野吉成情報課長(随行:同課学術基盤整備室佐藤浩彰大学図書館係長)等をそれぞれお迎えし、成功裡に終わりました。24日には、宮澤教授は附属図書館を、明野情報課長は学長を表敬訪問されたほか総合情報処理センター、地域共同研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー及び附属図書館を視察されました。

(4)自己点検・評価

平成13年度に実施された自己点検・評価(報告書は平成13年10月に「研究支援・サービスマインドからの提言」と題して公表、ホームページに掲載)のフォローアップを行います。また、本学自己点検評価委員会による点検・評価に対応します。

(いながわ としお 附属図書館事務部長)



平成13年度附属図書館統計

蔵書冊数

(平成14年3月31日現在)

区分	和漢書	洋書	計
本館	683,876 ^冊	289,545 ^冊	973,421 ^冊
医分館	45,378	54,209	99,587
農分館	95,791	24,931	120,722
計	825,045	368,685	1,193,730

貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	1,394 ^冊	57,232 ^冊	1,479 ^冊	60,105 ^冊
医分館	2,244	11,187	489	13,920
農分館	481	5,207	69	5,757
計	4,119	73,626	2,037	79,782

増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	13,546 ^冊	5,734 ^冊	19,280 ^冊
医分館	1,338	1,386	2,724
農分館	1,643	536	2,179
計	16,527	7,656	24,183

貸出人数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	885 ^人	37,868 ^人	954 ^人	39,707 ^人
医分館	1,151	6,301	240	7,692
農分館	323	3,471	40	3,834
計	2,359	47,640	1,234	51,233

所蔵雑誌種類数

(平成14年3月31日現在)

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	7,525 ^種	3,297 ^種	10,822 ^種
医分館	1,400	1,101	2,501
農分館	2,744	913	3,657
計	11,669	5,311	16,980

学外文献複写受付件数 (現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	2,585 ^件	164 ^件	2,749 ^件
医分館	3,107	132	3,239
農分館	1,147	29	1,176
計	6,839	325	7,164

受入雑誌種類数

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	3,993 ^種	1,486 ^種	5,479 ^種
医分館	784	498	1,282
農分館	886	296	1,182
計	5,663	2,280	7,943

学外文献複写依頼件数 (現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	3,265 ^件	188 ^件	3,453 ^件
医分館	4,563	77	4,640
農分館	1,329	59	1,388
計	9,157	324	9,481

第73回日本医学図書館協会総会を開催

平成14年5月23日(木)・24日(金)の両日、日本医学図書館協会(JMLA)総会が、「電子環境下におけるコレクション・ディベロプメント」をテーマに、南海放送本町会館を会場に開催されました。

これは医学部分館が中国四国地区代表機関として、開催の当番館を引き受けたもので、日本全国から240人の参加がありました。

会議日程は下記のとおりです。

第1日目 「館長司書会議」

国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹・実証研究センター実証研究推進室教授宮澤 彰先生の基調講演、パネルプレゼンテーション、総合討論

第2日目 「総会」

事業報告、決算・予算等の審議、次期役員選出

関係各位のご理解とご協力により、好評のうちに無事終了することができました。



「館長司書会議」



「総会」

ホームページから

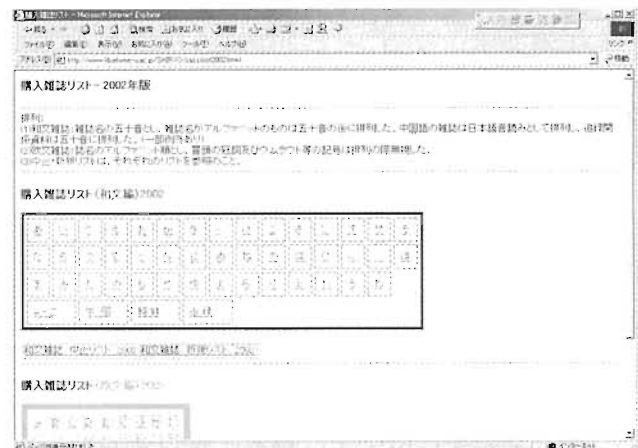
2002年版購入雑誌リストについて

図書館ホームページに継続購入雑誌リスト(2002年購入雑誌リスト)を公開しております。

和文編・欧文編のURLは次のとおりです。

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/SHIRYO/zassilist2002.html>

(*ホームページの所蔵資料紹介からご利用ください。)



「江嶋家文書」「永野文庫」目録を刊行

附属図書館では、今治藩家老江嶋家の文書 174 点を収めた「江嶋家文書」、及び小松藩医永野家に代々所蔵されていた古医学書や書写本、板本 89 種、242 冊を収めた「永野文庫」目録を刊行しました。平成 13 年度学長裁量経費の配分を受け、附属図書館デジタルコンテンツ研究会委員である教育学部福田安典教官指導のもとに作成したものです。

「江嶋家文書」は、江戸時代初期に文人としても活躍した今治藩家老江嶋為信関係文書、書簡、短冊などの資料です。為信は、ロングセラーとなった「仮名草紙」と呼ばれる『身の鏡』『理非鏡』を執筆し、また談林俳諧にも親しみ『山水十百韻』を著し、西山宗因、井原西鶴とも親交がありました。昨年 12 月には、資料中の天保年間に行った婚礼の献立目録を参考に学生等により婚礼料理の再現を行い広く報道され好評を得ました。今年度は今治市から受託研究を受け資料のデジタル化を行います。また永野文庫は、江戸初期の医学書や蘭学関係のものも含まれており、愛媛医学史のみならず近代医学に関する文献資料です。

目録は、全国国立大学附属図書館、中国・四国地区・愛媛地区大学図書館等の関係諸機関に配布しました。



「松高図書」と「鈴鹿文庫」の簡易目録を作成

従来、カード目録で利用しておりました「松高図書」と「鈴鹿文庫」の利便を図るため、カードを利用した冊子体目録を作成しました。本館、医分館、農分館に備え付けておりますのでどうぞご利用ください。

- 松高和書 著者名目録（簡略版） 上・下巻 1, 137頁
- 松高洋書 著者名目録（簡略版） 723頁
- 鈴鹿文庫 書名目録（簡略版） 548頁

* 松高図書

愛媛大学の前身の一つである、旧制松山高等学校（大正 8 年－昭和 24 年）の旧蔵書

* 鈴鹿文庫

卜部神道家の鈴鹿三七氏（京都市左京区）の旧蔵書。鈴鹿家が中世以降の神道家であるために蔵書の中心は神道関係であるが、物語、随筆、日記類を含んでいる。国学関係の書写本、板本、複製本、活字本、軸物、箱物等 7,432 点からなる。



お知らせ

夏季休業中の開館時間について

8月1日(木)から9月30日(月)まで夏季休暇になりますので、本館・農学部分館の開館日時および休館日が次のとおりになります。

本館

開館時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00
休館日：土曜日、日曜日および国民の祝日

医学部分館 平常どおり

農学部分館

開館時間：月曜日～金曜日 9:00～20:00
休館日：土曜日、日曜日及び国民の祝日

図書の特例(長期)貸出について

本館および農学部分館では、夏季休業にともない次のとおり特別(長期)貸出をします。

本館は資料サービス係、農学部分館は情報サービス係で手続きをしてください。

貸出冊数：5冊以内

取扱期間：7月23日(火)～9月20日(金)

返却期限：10月5日(土)

本館からのお願い

玄関前に自転車を置かないで!

前期の試験が近づくとつれづれ図書館の利用も連日盛況が続いていますが、残念なことに、図書館の玄関付近は、駐輪違反の自転車で溢れています。

図書館の玄関付近は、車椅子用のスロープがあります。駐輪違反の自転車があると車椅子が通れません。荷物の搬入も出来ません。また、公用および緊急時においても図書館前に自動車を駐車することが出来ません。

図書館利用者の皆さん、自転車は駐輪場(図書館北側)に置きましょう。

附属図書館委員会委員

(平成14年5月1日現在)

附属図書館長	柏谷 増男	(15. 3.31)
医学部分館長	貴田 嘉一	(15. 2.28)
農学部分館長	安部 武美	(14.10.31)
法文学部	上山 友一	(16. 3.31)
法文学部	田村 憲治	(15. 3.31)
教育学部	加藤 國安	(16. 3.31)
教育学部	山崎 博司	(15. 3.31)
理学部	向井 和男	(16. 3.31)
理学部	川合栄一郎	(15. 3.31)
医学部	暁 清文	(15. 3.31)
工学部	大上 健二	(16. 3.31)
工学部	白方 祥	(15. 3.31)
農学部	井上 章二	(16. 3.31)
事務局長	塩谷 幾雄	()内は任期

附属図書館委員会

平成14年度第1回附属図書館委員会

日時 平成14年5月14日(火)

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 「江嶋家文書」「永野文庫」目録の刊行について
2. 電子ジャーナル利用負担金の共通的事業費化について
3. 平成13年度附属図書館活動報告
4. 平成13年度学生用図書について
5. 平成13年度教育環境改善経費実施報告
6. 分館近況報告
7. その他

[協議事項]

1. 平成15年度概算要求について
2. 附属図書館将来計画委員会について
3. 附属図書館自己点検・評価委員会について
4. 図書選定小委員会について
5. 平成14年度学生用図書について
6. その他

図書館日誌 (会議, 研修)

- 4月4日 平成14年度第1回農学部分館運営委員会
- 4月11日 平成14年度新生オリエンテーション
- 4月25日 第50回中国四国地区大学図書館協議会総会 (高知)
～26日 第29回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会 (高知) 館長・事務部長・情報管理課長出席
- 5月14日 平成14年度第1回附属図書館委員会
- 5月20日 平成14年度第1回医学部図書・情報委員会
- 5月21日 国立大学附属図書館事務部課長会議 (学術総合センター一橋講堂) 事務部長, 情報サービス課長出席
- 5月23日 第73回日本医学図書館協会総会
～24日 (南海放送本町会館) 当番館
- 6月6日 平成14年度第2回農学部分館運営委員会
- 6月12日 新任課長研修 (東京) 情報サービス課長出席
～14日
- 6月26日 第49回国立大学図書館協議会総会
～27日 (鳥取大学) 館長, 事務部長, 情報管理課長, 専門員出席